

LOVE in Letter 9

～輸血を受けた患者さんのメッセージ～

私は、再生不良性貧血を発症し、弟から骨髄移植を受けました。それまでの間は投薬と輸血に頼る日々でした。

貧血状態が悪い時、輸血を受けると体が温かくなり、みるみる元気になります。輸血にどれほど助けられたかわかりません。何人の方々にお世話になったのでしょうか。

また、骨髄移植の際、血小板輸血をした時のことです。私は度重なる輸血から、血小板に抗体ができてしまっており、HLA(白血球の型)の一致した型の血小板でないと効果が出ない状況にあることがわかりました。そのため、私に合う血小板を探して用意していただいたこともあります。当時の職場の同僚や先輩は、少しでも私のためになれば・・・と、私のHLAと一致しないかもしれないことを承知で、私と同じ赤血球の型の人に声をかけ、献血に協力してくれました。この時は、本当にありがたく思いました。

私は、骨髄移植を受け、元気になることができました。お陰様で、病気になって以来、一時は諦めかけていた結婚もし、今は幸せに暮らしています。それも、快くドナーになってくれた弟のお陰だと感謝しています。

しかし、骨髄移植だけでは今の私はありません。大勢の方からの血液がなければ、骨髄移植まで辿り着くことすらできなかったでしょう。

献血される方は、ご自分の血液が、いつ、どこへ、誰のために届けられるのか、一切わかりません。「困っている人たちのために！！」という善意の気持ちで献血してくださっている方々のお陰で、私のように助っている患者が大勢いるのです。

私は、献血してくださる皆様に、心より感謝しています。

本当にありがとうございました。